

日本科学者会議 2013. 12. 16 発行

山形支部つうしん

NO.201

<http://www.jsa.gr.jp/yamagata/>

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

山形大学・人文学部 岩田浩太郎研究室

メールアドレス:iwata(...)human.kj.yamagata-u.ac.jp

最近の鶴岡班の活動

常任幹事（鶴岡班担当） 芦谷 竜矢

JSA 山形支部鶴岡班は、今期4名の幹事で班活動を進めています。鶴岡班でも退職に伴う会員の減少が続いており、どうにか班を維持しながら活動を続け、新しい会員も迎え入れたいと考えていました。そこで、個人的な勧誘活動を行ってききましたが、特に新任の教員には会の存在や活動について全く未知の方が多く、従前の個人的な勧誘では新規会員の拡大にはつながりませんでした。いかに魅力的な会にしてゆくかということ以前に、会の存在を知ってもらうことが必要な状況でした。そこで、鶴岡班では昨年度（2012年度）から、学内問題や食料・農業問題、環境問題、資源・エネルギー問題、政治・社会問題など、その時々ホットな話題を中心にフリートーキングおよび勉強会を班例会として開催し、まずは会員にとって必要な存在となることを目標としてきました。

これまで開催された班例会は下記の通りであり、毎回6-9名が参加し、活発な意見交換や懇親が行われています。

2012年度

第1回（2012.6.29）

フリートーキングと懇親会、

第2回（2012.8.9） 講演会

（再生可能エネルギーについて1）

第3回（2012.10.31） 講演会

（再生可能エネルギーについて2）

2013年度

第1回（2013.5.9）

フリートーキングと懇親会

第2回（2013.7.12） 勉強会

「憲法改正」、「TPP問題」

第3回（2013.11.29） 勉強会

「大学改革について」

また、この班例会には、会員だけでなく、非会員で関心のある方の参加も呼びかけています。昨年度はこの例会に参加して、興味を持ち会員になられた方もありました。今年度は、特に新任の教員の方へ参加を呼びかけています。未だ今年度新規入会の方はいませんが、班例会に参加して下さる方や、興味を示していただける方も出てきています。会員拡大には、この会が、まずは会員自身に、そしてこの職場や地域にとって魅力的な存在として認められる必要があります。今後も継続的に例会を開催し、会の認知と魅力向上につなげていきたいと考えています。

支部会員メーリングリスト運用開始

常任幹事（ネットワーク担当）西岡斉治

11月より山形支部会員向けにイベント情報やJSAの声明などの提供を目的とするML（メーリングリスト）を運用しています。既に何通かのメールが送信されており、順調に機能しているようです。12月15日からは支部会員同士の情報・意見交換を目的とする新たなMLも運用が始まります（執筆時予定）。

これらのMLへの登録を希望される方は支部常任幹事にご連絡ください。

第17回東京科学シンポジウム報告 第6分科会・日本の高等教育を立て直す

米沢班 栗野 宏

日本科学者会議東京支部は、1981年11月28日の第1回以来、総合学術研究集会が開かれない年の11月から12月にかけてのこの時期に、隔年ごとに東京科学シンポジウムを開催してきました。東京支部代表幹事の長田好弘さんとは、私が神奈川県の民間企業に勤めていた30年ほど前からおつきあいいただいているご縁で、東京科学シンポジウムに今回はじめて参加することになりました。

第17回東京科学シンポジウムは、2013年11月30日・12月1日の両日、中央大学多摩キャンパスで開催されました。分科会が19テーマも設けられ、そのほかポスターなどの展示会場が4部屋も用意されています。私は午前中設置された第6分科会「日本の高等教育を立て直す」に参加し、山形大学で昨今起きている諸「事件」

について報告しました。そのきっかけは、9月29日に東京で開催された「日本科学者会議民間企業技術者・研究者問題委員会」で、委員長の長田さんら委員の方々と、いっなくな大学の問題が話題になったことにあります。その延長で、大学問題の分科会に参加することとなり、2日めしか参加できない私のために、分科会日程を調整していただくことになったものです。

第6分科会には3本の報告が提出されました。【6-1】齋藤安史さん（JSA大学問題委員会、群馬支部）「安倍政権下の『大学改革』が強行されると大学は破滅する」、【6-2】栗野（山形大学）「『アベノミクス成長戦略』のもとで大学に起きていること—地方国立大学からの報告—」、【6-3】佐久間英俊さん（中央大学分会）「私立大学破滅の危機と問題解決の方向」の3本です。

齋藤報告は、2013年夏以降の安倍政権による「国立大学改革」の全体像を概観するもので、大変参考になりました。特に、11月26日に文科省から出されたばかりの「国立大学改革プラン」（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/11/1341852.htm）が紹介されたことは、貴重でした。また、「日本科学者会議大学問題委員会」がこのシンポジウムに間に合わせてつくったというブックレット『危機に直面している日本の大学 新自由主義と大学ガバナンス』（合同出版、630円）も紹介され、私も会場で1冊買って一読しました。

栗野報告では、2007年の「天下り学長」就任、2013年に入ってからの原子力規制庁元審議官の教授就任、学長選考問題、工学部長選挙への学長介入疑惑、「未払賃金請求訴訟」など、山形大学で起きている出来事とともに、一方では法人経営側が

安倍政権＝文科省にすり寄っていく様相とともに、もう一方ではさまざまな矛盾やほころびが露呈している現実を報告しました。

佐久間報告は、私学が日本の高等教育の大半を担っているにもかかわらず、深刻な現実に直面していることを告発するものでした。国立大学も「人文・社会科学分野は国立大学には不要」「私学にまかせておけばよい」などという不当な攻撃にさらされていますが、私立大学が直面する諸問題は、根っここのところで国立大学のそれと一緒にあることを、あらためて知りました。

そのほか、第6分科会では、大村 泉（東北大学名誉教授）らによる「井上（前）東北大学総長の研究不正と名誉棄損裁判」が飛び入りで報告されました。データ捏造や改ざんなど横行する研究不正を自らたずくることができない「研究者コミュニティ」の深刻な現実が告発されました。関連する詳細な報告が、昼休みのポスター会場でも行われたのは、貴重な機会でした。

昼休み終了後は、第16分科会「人間らしい労働環境を取り戻すために一企業の労務政策と労働疾病・職業病と闘う一」に参加して、社会政策の研究者、全労連事務局次長、日航および京王電鉄それぞれの現場でたたかっている（たたかってきた）方々の報告を聴きましたが、ここでは割愛させていただきます。

ベトナム訪問記

常任幹事（地教班担当）那須稔雄

11月24日から12月1日までアジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会(AALA)山形支部の訪問団の一員としてベトナムを訪問してきました。

今回の訪問団・10名は以下のような地域を訪問しました。ハノイ国家大学における交流と授業（授業の内容：“3・11原子力発電所事故から考える 被災地 福島の現状について”：那須が授業を担当）、ハノイ市内見学（文廟（孔子廟）、ホーチミン主席博物館、ホーチミン主席の執務室や住居、古典芸能の鑑賞）、フエ王宮跡、ホイアン（世界遺産）の街、ベトナム戦争の激戦地・ケサン基地跡、ホーチミンルートの一部、地下基地（ヴィンモック村の地下住居や病院跡など）、ハロン湾のクルーズなど、充実したベトナム訪問の旅を通じて、ベトナムの風土・歴史や人々に触れて、日本からの訪問団一同はベトナムがすっかり好きになり、ベトナムファンになりました。

私にとって、ハノイ国家大学で学生向けに「原発事故問題」で授業を行う機会を与えられたことは、大変よかったです。安倍首相がトップセールスで「日本の原発は世界一安全」とベトナムなどに原発を売り込んでいることに「一矢報いたい」と思っていたからです。受講した学生からは、そのような危険があり、事故も収束していないにも関わらず、「再稼働を進めようとしているのは何故か？」という質問などが出され、活発な意見交換が行われました。もちろん、今回の講演で何かが直接起こるということは期待できるわけではありませんが、これからのベトナムを担う若者たちに重要な情報提供が出来たのではないかと、思っています。

ベトナム戦争屈指の激戦地のケサン基地跡や解放戦線を支える人々が最前線に物資を運搬したホーチミンルートの一部をたどったり、地下基地・住居の村（ヴィンモック村）の見学は、ベトナム戦争時に学生時代を過ごした私にとっては、感慨深いも

のがありました。特に米軍の攻撃を避けるために地下に建設された村の病院で生まれた男性（地下壕の案内人）の様子（爆弾の炸裂音で聴力が失われ、話すこともできない）に接し、このような方々の苦闘の上に、今のベトナムやアジアの現状が創られていることを実感しました。多くの犠牲やたたく力によって時代は確実に変化、発展していることを実感しています。

最終日にベトナム日本友好協会の本部に表敬訪問をしました。カイ会長は、東日本大震災に際して、ベトナム全土で、被災地を支援する募金が空前的規模で取り組まれとのことで、ベトナム国民と日本国民の深いつながりがそこに反映しているとおっしゃっていました。また、私達一行の案内役兼通訳をしてくれたハノイ国家大学の学生・ナム君は、“きずなプロジェクト”で被災地（石巻）を訪問し、被災者支援を行ってきた、とのことでした。

第3回支部例会のお知らせ

日時：1月24日（金）午後5時30分～

場所：人文学部3号館2階206号室

（山形市 山形大学小白川キャンパス）

講師：後藤彰氏（山形大学教授）

重粒子線がん治療施設準備室）

テーマ：山形大学重粒子線がん治療施設計画について

粒子線がん治療装置とはどういうものであるかを説明し、現在山形大学で進めているエコ型&総合病院接続型の重粒子線がん治療施設計画について 紹介します。

2013年度山形支部例会（第2回）報告 「原子力発電と断層について」

講師 藤本光一郎氏（東京学芸大学）

12月13日（土）午後1時30分から、人文学部3号館206教室で表記の講演会が行われました。講師の藤本氏は、原子力規制委員会が設置した「原子力発電所・敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合」の委員の一人であり、氏が参加した敦賀原発断層調査について調査時の写真などの具体的なデータを示しながら詳しい説明がなされました。

「有識者会合」が実施した敦賀原発の調査の結論は以下のとおりである。

- ・原発の設置されている敦賀湾は活断層の密集地帯である。
- ・M7クラスの地震を引き起こす可能性のある浦底断層が原子炉から200mの地点を通過している。
- ・原子炉敷地内は花崗岩だが、内部に多数の断層群が走る。この断層の活動性が議論された。
- ・主なポイント 断層の連続性。最新活動期などについて検討が行われた。
- ・最終的に2号機の直下を通るD1断層は活断層であると認定した。

講演も含めて約3時間、活発な質疑が行われ、その後、会場を改めて講師の藤本氏を囲んで懇親会が行われました。